

あなたは知っていますか？

世界の女性のこと、日本の女性のこと



「国際女性デー」

それは、女性の生き方を考える上で
とても大切な日です。

シンボルである「ミモザ」の花束を手に、
すべての女性が前向きに生きていけるよう
“あなたにできること”を考えてみませんか

ご存知ですか？

「国際女性デー」

「国際女性デー」は、国連が1975年に定めた「女性への差別撤廃や女性の地位向上」を訴える日で、毎年3月8日がこの日に当たります。

この日は世界各国で「女性の生き方を考える日、女性に感謝を伝える日」とされています。

なぜ3月8日なの？

「国際女性デー」が3月8日になった理由は諸説あると言われていますが、一説によると1908年3月8日、アメリカ ニューヨークで女性たちが婦人参政権を求めてデモを起こしたのを受けて、ドイツの女性解放運動家 クララ・ツェトキンが1910年のこの日、国際社会主義会議において「女性の政治的自由と平等のために戦う日」とするよう提唱したことから始まったとされています。

女性の運動からやがて国際女性デーに

その後、2度の世界大戦を経て、女性にも徐々に権利が認められるようになり、1975年の「国際女性年」、国連が初めて3月8日を「国際女性デー」として祝いました。その後、1977年の国連総会で正式に「女性の権利と国際平和を祝う日＝国際女性デー」と決議し、現在の国際女性デーが形作られました。

世界各国の国際女性デー

日本でもようやく認知度が高まってきた「国際女性デー」。世界各国でも広く認知されています。ロシアやジョージア、カンボジアなどこの日を祝日に定めている国は20カ国以上にのぼります。祝日にこそなっていないものの、国内でさまざまなイベントが行われる国も少なくありません。

「国際女性デー」とミモザの花

「国際女性デー」のシンボルとされているのが「ミモザの花」です。

「国際女性デー」はイタリアでは「FESTA DELLA DONNA (フェスタ・デラ・ドンナ＝女性の日)」とされ、男性が日頃の感謝の気持ちを込めて、女性にミモザの花束を贈る習慣があります。



なぜミモザの花を贈るの？

諸説ありますが、ミモザはイタリアに自生していて、誰でも手に入りやすい花であるため、貧富の差なく誰でも感謝の意を示すことができるという理由や、西欧諸国では黄色い花は「厳しい冬に終わりを告げ、暖かい春が来たことを知らせる」とされており、イタリア女性組合がそのシンボルにミモザを選んでいるから、などの説が有名です。あなたも周りの大切な女性に、ミモザの花を贈ってみませんか？



Message

タレントのくわばたりえさんからこの冊子をご覧の皆さんにメッセージをいただきました！

世界中のすべての女性が自分の人生を自分で決められるように。性別関係なく、みんなで支え合っていけばいい。どこにいても誰もがずっと笑顔でいられる社会を一緒につくりましょう。私もジョイセフの活動に参加しています。



くわばたりえ

ホリプロコム所属 お笑いタレント 国際協力NGOジョイセフ | LADY.アクティビスト

世界の女性のこと、 日本の女性のことについて 聞いてみました

未だ世界には、女性を取り巻く多くの課題があります。
そして、その課題に向き合い、少しでも社会が良い方向に向かっていけるよう、活動を続けている方がいます。

世界中の女性のいのちと健康を守るために活動されている、日本生まれの「国際協力NGOジョイセフ」の小野美智代さんに、世界、そして日本の女性を取り巻く現状についてお話を伺いました。

「国際女性デー」に向けて、国際協力NGOジョイセフでは どういった活動をされていますか？

ジョイセフでは国際女性デーに合わせて、チャリティーランニング大会である「ホワイトリボンラン」の実施や、途上国の女の子支援につなげる「チャリティーピンキーリング」の新色の発表など、この日をより多くの皆さんに知ってもらい、世界に共通する重要な課題「ジェンダー平等」や「女性特有の課題」について考えるきっかけの場を作り、課題解決につながるアクションを提案し続けています。走ることにしても、ピンキーリングを付けることにしても、国際女性デーに取り組むすべてのアクションが、“自分のために。誰かのために”と双方にとってエンパワーできる日になれば・・・と願っています。

世界における、女性を取り巻く課題・現状について教えてください

世界では、2分に1人の割合で、女性が妊娠・出産・中絶で命を落としています。その99%が途上国の女性です。さらに世界の10代の女の子の最大の死因が妊娠や出産でもあります。

ジョイセフが支援活動に入るような地域は、保健医療施設が遠く、移動する手段も選べなかったり、たとえ近くに施設があっても、水道も電気も消毒液もない不衛生な施設で、医療スタッフも設備も整っていなかったりして、安全に、安心して女性が分娩できる環境下ではありません。また、分娩時および産前産後に妊産婦がケアを受けられないような文化的あるいは伝統的慣習が存在することから、妊娠しても一度も検診を受けることなく分娩の当日を迎える女性が多く、これが妊産婦死亡率を高めています。母親が亡くなると、その子どもたちの死亡率も上がる統計が出ており、国際的な重要課題として、妊産婦死亡率を下げる必要があることが叫ばれています。

日本での女性を取り巻く環境・現状はどうでしょうか？

妊産婦死亡率でいうと日本は世界で最も低い国の1つなのですが、一方で世界各国の男女格差を調査した「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」では、2019年版で日本は世界153カ国のうち、121位(2018年は110位)にランクを落とし、ジョイセフが支援活動をする貧困国よりも低い順位となりました。

日本の順位の前後の国を見てみると120位アラブ首長国連邦、122位クウェートで、この中東の2カ国は、学校は男女別であったり、女性は男性の許可がないと離婚は許されない、など。これらは宗教などの厳しい戒律があるためと考えられています。問題の所在が見えにくい日本の男女格差の状況は、より深刻に思えます。日本は、過去に複数回にわたって、国連からも差別是正のための勧告が出ています。まずはこの現状を私たち一人ひとりが知って受け止めることが重要です。

このような現状を変えるため、私たちは何を考えるべきでしょうか？

私たちの無意識の中に隠れている「ジェンダー規範」を自覚することから始めてみるのだと思います。この隠れたジェンダー規範から一人ひとりが解放されたら、社会のリーダーを担う役割に女性が増え、きっと日本の男女格差は急速に縮小していくはずです。そして日本が変われば世界のジェンダーの課題解決に大きく貢献できると信じています。

※ジェンダーとは …社会的・文化的な性別のこと。私たちが普段、男性は○○であってほしい、女性は△△であってほしいと無意識のうちに思い込んでしまっている考えとも言えます。

**国際協力NGOジョイセフでは、世界中の女性のいのちと健康を守るために様々な活動が行われています。
興味を持った方は、ぜひ下記のURLにアクセスしてみてください。**

国際協力NGOジョイセフ ホームページ
<https://www.joicfp.or.jp/jpn/>



小野 美智代(おのみちよ)さん

国際協力NGOジョイセフ 市民社会連携グループ長

世界の妊産婦や女性の現状を訴え、支援を募る。東日本大震災以降は、日本国内のジェンダー格差やセクシュアル・ヘルス/ライツの根深い問題にも注力し、グローバルな視野で「I LADY. ~Love yourself, Act yourself, Decide yourself」プロジェクトを展開。日本から世界中のすべての女性が健康で自分の人生を自分で決められる社会を目指し活動している。静岡県立大学非常勤講師。娘2人(11才と5才)と夫の4人家族。



Flower arrange & photo by tomoko yamada



すべての女性が前向きになれるように、
あなたにできることを考えてみませんか。

協力／国際協力NGOジョイセフ

編集・発行／公益財団法人三重県文化振興事業団
〔三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」〕

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 三重県総合文化センター内
TEL：059-233-1130 FAX：059-233-1135

E-mail：frente@center-mie.or.jp HP：https://www.center-mie.or.jp/frente/